

義は私をおおった。
私の公義は上着であり、
かぶり物であった。

- 29:1 ヨブはまた、
自分の格言を取り上げて言った。
- 29:2 ああ、できれば、私は、
昔の月日のようであったらよいのに。
神が私を守ってくださった
日々であったらよいのに。
- 29:3 あのと、神のとしびが
私の頭を照らし、
その光によって私はやみを歩いた。
- 29:4 私がまだ壮年であったころ、
神は天幕の私に語りかけてくださった。
全能者がまだ私とともにおられたとき、
私の子どもたちは、私の回りにいた。
- 29:6 あのと、私の足跡は乳で洗われ、
岩は私に油の流れを
注ぎ出してくれたのに。
- 29:7 私は町の門に出て行き、
私のすわる所を広場に設けた。
- 29:8 若者たちは私を見て身をひき、
年老いた者も起き上がって立った。
- 29:9 つかさたちは黙ってしまい、
手を口に当てていた。
- 29:10 首長たちの声もひそまり、
その舌は上あごについた。
- 29:11 私について聞いた耳は、私を賞賛し、
私を見た目は、それをあかしした。
- 29:12 それは私が、
助けを叫び求める貧しい者を助け出し、
身寄りのないみなしごを
助け出したからだ。
- 29:13 死にかかっている者の祝福が私に届き、
やもめの心を私は喜ばせた。
- 29:14 私は義をまとい、

ヨブは過去の試練に遭う前の自分をなつかしめます。友人は助けにならないこと。今は沈黙しておられても、やはり神の知恵により頼む以外ないことを感じてはいましたが、もう過ぎてしまった日々をどうどう巡りしています。

それは時には私たちの姿ではないでしょうか。子どもの頃や壮年の頃、賞賛や善行など…失ったものばかりに思いが行って、未来に向けなくなってしまう。

パウロがピリピ書で「3:13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えるはしません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、」と言っています。神は間違っ過去を消去したのではありません。未来に祝福を備えておられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

